

神奈川県私学助成制度運営協議会御中

## 神奈川の私学助成・経常費助成制度についての要望書

2020年8月7日

神奈川県私学教職員組合連合  
執行委員長 長谷川正利

神奈川の私学教育と子どもたちのためのご尽力に敬意を表します。

私たち神奈川県私学教職員組合（以下、神奈川県私教連）は、神奈川県内の各私立学校の教職員組合が加盟して組織された連合体です。私立学校教職員の経済的社会的並びに政治的地位の向上を図ると共に教育及び研究の民主化を実現し、文化の発展、私学の振興に寄与することを目的としています。その一環として私学助成の拡充をめざす私学助成運動に長年取り組み、毎年国と県議会とに請願署名を提出し、県には私学振興課を通じて要望を伝え、その実現を図ってきました。そうした中、昨年、私学振興課との懇談の中で私学助成制度運営協議会への要望提出の方法を教えてください、ここに初めて要望書を提出するものです。

さて、神奈川県私立学校に対する経常費助成制度に現在の「標準運営費方式」が導入されてから早くも約20年が過ぎようとしております。この制度が導入されたのは、18歳人口が急増期から急減期に転じた中でこの事であったと思います。しかし、それから20年をへて、日本の社会と教育、さらには神奈川県社会と教育にも大きな変化がありました。

特に今年は、新型コロナウイルスの感染が広がる中、「with コロナ・post コロナ時代」における生活のあり方と社会・学校のあり方が問われ、国においても「今までの教室に40人を収容するあり方は無理がある」との問題が文部科学大臣からも国会で表明されるに至っております。私たち神奈川県私教連はコロナ禍の中、先に私学のコロナ禍対応への助成の拡充について、二度にわたり神奈川県知事に対する要請を行い、その多くの要望項目を6月の補正予算に盛り込んでいただくことができました。

このことに改めて謝意を示すとともに、さらに今後の神奈川県子どもたちへの教育と私学教育の発展のために、私立学校への経常費助成のあり方について、以下の提案をさせていただきます。何卒、以下の提案をご検討いただき、21世紀の神奈川の私学教育が持続可能なものとなるように、ご高配いただきたいと思います。

また、私学助成制度運営協議会の開催にあたりまして、この要望書趣旨の陳述及び、審議の傍聴をご許可いただきますことを、加えてお願いいたします。

## 記

### 1. with コロナ時代に対応した経常費助成のために

#### (1)専任の養護教諭の配置に対する助成を制度としておこなうこと。

with コロナ時代を迎えて、私学にも子どもたちの生命と健康を守ることが、その教育の発展のためにも強く求められています。しかし、現在の経常費助成の算定では、養護教諭は一般の教諭の一員としてしか算定されていません。こうした中、専任の養護教諭が配置されていない学校も少なくありません。多くの私学は公立学校よりも広い地域から通学する生徒が多く、子どもたちの生命と健康など、養護を司る養護教諭の果たす役割はむしろ大きなものがあります。こうした課題に鑑み、経常費助成の算定において、養護教諭を一般教諭とは分離して別枠で各学校に最低1名の枠を設けることを提案します。

#### (2)クラス定員の改善に努力した私学に対して、補助する制度を設けること。

with コロナ時代を迎えて、文科大臣からも「40人を詰め込む教室は見直すべきだ」との見解が示されています。しかし、多くの私学では40人どころか、50人近いクラス定員の学校すらあります。他方、特に高校で私学が入学定員数を減らすと、高校に進学できない中学生が多く生まれる危険性もあります。こうした中で、子どもたちが安全で健康な学校生活を送る環境を整えるために、経常費助成の制度において「学級定員40名」以下の基準でクラスを編成する学校に対して、経常費助成にて補助を増額する制度を設け、段階的にその水準を引き上げて、学級定員の改善をすすめることを提案します。

#### (3)家庭へのWiFi機器貸与や消毒対策費などについて、その費用を継続的に補助すること。

本年度、神奈川県が6月補正予算で、「家庭へ貸与するWifi端末購入費」「コロナ対策のための費用」について、国の1/2補助に加えて、県から残りの1/2が補助される、画期的な措置が実現しました。しかし、コロナ禍への取り組みは今年度だけで収束するとは限らず、また今後も様々な感染症の問題が起きることが予想されます。こうした現実をふまえ、本年度に実現した補助を来年度以降も経常的な補助として行うことを提案します。また、特にWifi端末については「通信費の負担」についても補助対象とする様に提案いたします。

### 2. 神奈川の私学教育を持続可能なものとしていくために

#### (1)私学における働き方改革をすすめるために、経常費助成の教職員割は「専任教諭」を基本とする制度に移行すること。

現在、私学助成経常費助成で大きな金額を占める教職員割は、専任教職員だけでなく、「常勤講師」「臨時任用教諭」等の期限付きでの非正規雇用の教職員や、「非常勤講師の持ち時間18時間分」などが同じく「教員1名」として算定されています。これは、実際に私学で働く教職員数を基礎として助成金を算定するという面は持つものの、他方では様々な非正規教職員や非常勤講師に依存する経営を助長するものともなっています。こうした現実は、非正規教職員には「専任になりたいので、評価されるためにどんな無理な仕事でもやろうとする」という労働実態を生みます。さらに、非正規教員の多くが数年で入れ替えられて、専任教員は「専任でないといけない仕事」に追われることとなります。さらに同僚としてやっとなチームを組んで働くことに慣れた段階で、また非正規教員が入れ替わってしまい、一からの出直しとなります。こうした現実が、私学での「働き方改革」を大きく阻害しています。もちろん、こうした現実には、子どもたちにも自分たちが親しんだ先生が数年でいなくなる、という私学とは思えない事態を広げています。

愛知県では、助成金の教職員割の算定にあたって「臨時教員」「常勤講師」等の割合が多いと助成金がマイナスされる仕組みを導入し、年々、その割合を引き下げて私学の専任教員比率の引き上げによる教育条件の改善をすすめる施策をとっています。一方、神奈川では、約半数の教職員が様々な名目での非正規雇用教員となっていると指摘されています。

こうした私学の雇用実態は、近年は広く社会的にも知られて問題となっており、「私学はブラックな職場が多いので、採用試験があっても受けない」との反応すら生まれています。これは、私学教育の持続可能性に関わる大きな問題であり、また私学が建学の精神に立って特色ある教育をすすめていく上でも大きな問題と言わねばなりません。

こうした現状を改善するために、神奈川県においても経常費助成の教職員割の算定において期限付きでない専任教諭数を基本とする制度に改め、非正規率が高くなっている学校には減額する制度を導入することを提案します。この制度の導入にあたっては、当然ながら、各私学の教育に困難をもたらさない様に、数年間の経過期間を設けて段階的に実施する必要があります。しかし、この改善をすすめることを広く公表することにより、神奈川私学を志望する若い世代の確保もはかることができます。

## (2)標準運営費方式の算定基礎を改善して、名実ともに1/2助成を実現すること。

現在、神奈川県を経常費助成は、生徒一人当たりの予算単価で小学校から高校までを通じて全国最低レベルとなっています。その大きな要因として、経常費補助の算定基礎から公立学校運営費のうち多くの項目が除外されていることがあります。このため、高等学校の公立学校消費的経費(2018年度)を全日制高校公立高校生数で割った一人あたり経費 97 万 4254 円に対して、私立高校の生徒一人あたり経常費助成は 33 万 3937 円で、34.3%に留まっています。こうした結果、神奈川私学全体の事業活動収入で見ても、経常費助成はその3割程度に留まり、1/2助成には遠く届かないものとなっています。

こうしたことは、父母負担を増やし、さらには学級定員の改善や教職員数の改善を妨げる大きな要因となっています。15歳人口の減少が続く中であっても、私学に学ぶ生徒数は増えています。その私学でのこうした状態は大きな問題であり、今後の私学教育の発展にとって改善が求められています。

こうしたことから、経常費助成の算定基礎としている公立学校運営費の除外項目について再検討を行い、名実ともに1/2助成に改善していくことを提案します。

(3)中高一貫校における「中学納付金の高校納付金算定への参入」などを改めること。

現在、中高一貫校において少なくともその一部では「高校での経常費助成の算定にあたって、中学校入学時の納付金の1/6の額を、高校の納付金に加えて算定する」との措置が行われています。これは、あるいは「中学入学時の納付金を多くとり、その分だけ高校で減らすことで高校の経常費補助の算定で有利になる事を避ける」狙いがあるのかも知れません。

しかし、これは神奈川の私立中学に対する経常費助成が最も国基準から立ち遅れている現実を無視したものです。助成金が少なければ、それだけ校納金負担は多くならざるを得ません。それなのに入学時納付金の1/6を高校の分と算定して、助成金を減らされるのでは、ますます保護者の校納金負担が増えることとなります。中高一貫校でもその多くは、高校進学時に進学金などの名目で外部から入学者と同様の納付を求めており、こうした根拠のない参入方法は取りやめるべきとある、と提案します。

以上